

「公的統計マイクロデータオンサイト施設の設置に際して」

香川大学創造工学部 教授 紀伊雅敦

香川大学では令和3年3月1日に「公的統計マイクロデータオンサイト施設（通称 Kada-Stat）」を開設しました。当該施設は全国で12番目に設置されたオンサイト利用施設であり、中四国以西で初の設置となります。本稿では、まず香川大学についてご紹介した上で、本大学で Kada-Stat の設置に至った経緯、Kada-Stat の運用方針と今後の期待について述べたいと思います。

香川大学について

国立大学法人香川大学は文字通り香川県に所在する総合大学で、6学部7研究科を擁し、学部学生約5600名、大学院生約700名を教育しています。当大学では、文系理系を含む全学部生に対し、独自の三位一体型（DRI）教育を実施しています。これは Design Thinking, Risk Management, Informatics から構成されるカリキュラムであり、社会で起こりうる様々な未経験の課題に対して、人々と共創して課題解決に当たることができる基盤的能力の涵養を目指すものです。また、研究を通じて、地域が直面する課題に様々な関係主体とともに取り組み、得られた成果をグローバルに展開するとともに、持続可能な地域社会の実現に貢献することを目指しています。

Kada-Stat の設置に至った経緯

公的統計については学内の多くの教員が教育、研究に活用しており、また、一部の教員は、これまでもマイクロデータを利用してきました。しかし、致し方ないこととは言え、データ提供までのハードルの高さは、利用経験者に共通して認識されていると思います。このため、マイクロデータの研究利用を躊躇しているとの意見も少なくありませんでした。そうした中、マイクロデータ利用ポータルサイトのマイクロデータ活用事例で研究を紹介する機会をいただいた筆者が、オンサイト施設について紹介いただいたことが、当大学で設置を検討するきっかけとなりました。

オンサイト施設は、マイクロデータに直接アクセスし、分析できること、データ提供の審査は分析後に行われることなど、公的統計を扱う研究者にとっては非常に魅力的な施設であり、研究者個人としては是非とも大学に設置してほしいと希望するようになりました。ただし、個人で希望しているだけでは実現することはないので、関心のありそうな同僚の教員に声かけをし、賛同者を募るところから始めました。そうした状況を、統計データ利活用センター様にご相談したところ、所長をはじめ数名の方が、本大学に訪し、マイクロデータとオンサイト施設についての説明会を開催してくれることとなり、学内の賛同者を集める、またとない機会となりました。説明会ではすべての学部から参加者があり、その後のアンケートで、一部の参加者からは不要との意見があったものの、全学部から賛同者を得られました。これにより、特定の学部にのみメリットがあるものでは無いと理解されたことも、その後具体的に設置を検討する根拠となりました。

こうした状況を副学長である同僚の教員に相談したところ、設置を申請するための学内手続きをご教示いただくとともに、大学執行部への相談、関係各署への連絡、設置場所の検討など、学内関係各署の調整にご尽力いただきました。学内で承認を得るためにはいくつかの課題がありましたが、最も大きな

課題の一つは設置場所だったと思います。当該施設はすべての学部の教員が利用しうるのみならず、学外者も利用できる施設です。このため、管理体制と設置場所を同時に考える必要がありました。管理する部局は当然業務が増大することになりますが、設置・管理を担当することとなった図書館職員の皆様には、設置の趣旨をご理解いただき、各種手続きや規程の作成等について多大なご尽力をいただきました。また、限られた期間での施設整備だったため、施設整備グループにも関係機器の発注や工事等でご尽力いただきました。また、SINETを通じた接続のため情報グループにも各種作業を担当いただきました。さらに、学内の各種規定類の確認と決定手続きについては学術部長の力添えによりスムーズに進めることができました。一方、最大の懸案となると思われた設置費用の措置については、公益財団法人統計情報研究開発センターのオンサイト環境整備助成金により、相当部分がカバーされたため、極めてスムーズに措置を判断されたものと思います。この助成金制度が開始されたことが、設置申請の判断を後押ししたものと考えており、助成金制度が無ければ、設置に至らなかった可能性も高いと思われます。また、統計データ利活用センターの皆様には手続き等に関する様々な相談にご対応いただき、各種アドバイスをいただきました。

通常、新たな施設整備などを行う場合、言い出した人間が最も苦勞するものなので、私自身、設置希望を言い出すべきか躊躇しましたが、オンサイト施設の魅力にあらがえず、周りの方々を巻き込んでしまいました。しかし、そうしたところ、多くの方々にご尽力をいただき、また助成金に採択されるなど、様々な僥倖にも恵まれ、おかげで私自身はほとんど苦勞することも無く開設の日を迎えることができました。関係者の皆様に感謝申し上げます。

Kada-Stat の運用方針と今後の期待

香川大学では、本施設を学内外の皆様にご利用いただけることを目指しております。運用の詳細についてはホームページでご案内いたしますが、施設予約状況のホームページでの確認、メールによる予約申し込みなど、利用しやすい工夫をしております。利用に関わるセキュリティ等については当然のことながら、オンサイト施設のルールに準拠いたしますが、調査・研究の実施環境として快適にご利用いただけるよう運用する方針です。

オンサイト施設は、研究者はもちろんのこと、特に、公共・公益事業に関わる実務家の方にも有益な施設です。一般に公開されている集計された公的統計では十分捉えることができなかった、様々なセグメントの特徴や特性項目間の相関など、探索的に検討することが可能であり、新たな知識の発見や理論の構築につながることを期待されます。また、こうした研究を通じて研究者の技能や知識が向上し、教育にフィードバックされることも期待しています。本学の DRI 教育では文系理系にかかわらずデータサイエンスに関する素養を身につけることを目指しており、研究を通じた教員の統計に関する知識と技能の向上に、本施設は有益であり、ひいてはデータサイエンス教育のレベルアップに貢献すると考えられます。

行政分野では EBPM (Evidence based policy making) が求められています。行政職員自身も統計データを用いた政策効果の分析等に取り組み始めており、行政を支援するコンサルタントでも業務での利用が見られるようになってきました。さらには、公益に資するエネルギー、金融、運輸などの事業者でも調査票情報の利用実績が見られます。こうした情報はマイクロデータ利用ポータルサイトの提供状況一覧で確認することができます。今後は、持続可能な社会を構築するために、医療や福祉、建設や不動産など、公益に関わるさらに幅広い分野での活用も期待されます。また、民間企業と大学との共同研究として利用されているケースも見られ、地域企業との共同研究を通じた利用など、大学の地域貢献にも有益

と考えられます。

さらに、こうした統計知識の必要性が社会的に高まるならば、リカレント教育機関としての大学の役割も重要性が増してくる考えられます。社会人は業務を通じて問題意識が明確な方が多く、例えば博士課程でマイクロデータを利用した研究に取り組むことで、実問題の解決に資するマイクロデータの利用方法に精通した専門家が育成されることなどが期待されます。このような専門教育を実施する上で、オンサイト施設が中四国で初めて設置された意義は非常に大きく、今後、Kada-Stat が近隣の教育、研究、実務に幅広く活用されることを期待しています。

何より、私自身がこの施設を使えることを非常に楽しみにしております。予約で埋まってしまう前に、利用申請の手続きを進めたいと考えています。



【問い合わせ先】

電話：087-832-1243

メールアドレス：onsite@kagawa-u.ac.jp

Web サイト：http://opac.lib.kagawa-u.ac.jp/www1/ONSITE/